

<確認問題1> 5月26日(火)出題

- ・問題及び解答をA4ノートにまとめましょう。但し、ルーズリーフ、レポート用紙は提出時の紛失等避けるために禁止します。
- ・乗船後にまとめたA4ノートを提出していただきます。提出できなかった場合、統一確認テストを受験できなくなる可能性がありますのでご注意ください。

【問題①】

海上保安庁が発行する航海用海図は縮尺によって五つに分類されるが、その5つを答えよ。

【問題②】

海図、灯台表等からの情報について述べた次の文のうち誤っているのはどれか、番号で答えよ。

- (1) 灯台の光達距離 L (Km) の概算式は、灯高 H (m)、眼高 h (m) とすれば、 $L = 2.08 \times (\sqrt{H} + \sqrt{h})$ で表すことができる。
- (2) 灯台表記載の灯台の光達距離は、眼高を 5m としたものである。
- (3) 日本国内では、IALA 海上浮標式の B 方式を採用している。
- (4) 海図上の山の高さは、基本水準面から測定したものである。

【問題③】

海図の記載において、基本水準面（最低水面）を基準とするものには何があるか答えよ。

【問題④】

A 地点から B 地点まで航走したときの航法について述べた次の文のうち、誤っているのはどれか、番号で答えよ。

- (1) 両点間を航走したとき、航程(Dist.)、針路(Co.)、変緯(D.Lat.)、東西距(Dep.)のうち、二つの要素が既知のとき、他の二要素を求めるのが平面航法である。
- (2) A 地点から真東(又は真西)に航走したとき、両地間の変経(D.Long.)、東西距(Dep.)、経度の諸要素を求めるのが距等圏航法である。
- (3) 二地点間の東西距(Dep.)の値に相当する両地子午線間の距等圏の緯度を、両地間の平均中分緯度として、航程(Dist.)、針路(Co.)から変緯(D.Lat.)、変経(D.Long.)の諸要素を求める(又はその逆)のが平均中分緯度航法である。
- (4) A 地点から B 地点まで障害物、風潮流等により、直航できないとき、これらの針路(Co.)と航程(Dist.)から B 地点までの、直航針路、直航航程、到達時刻を求めるのが連針路航法である。

<確認問題1>

【問題⑤】

推測位置と推定位置，決定位置を求めるにあたっての注意事項を述べた次の文のうち，誤っているのはどれか，番号で答えよ。

- (1) 風・海潮流などの外力の影響は，その船のトン数，航路，季節，天候，海面状態により異なる。
- (2) 荒天航行時には，風浪のため操舵保針が困難となるから，平穏なときより船の偏移は大となりやすい。
- (3) 風・海潮流の影響については，海図上に記載された流向流速の値及び天気図を利用する。
- (4) 外力の影響を考慮した推定船位は，いかに最新の補正資料を用いても，その誤差をなくすることはできない。

【問題⑥】

次の項目は AIS（船舶自動識別システム）における他船に関する表示事項を示しているが、正しくないのはどれか番号で答えよ。

- (1) 対地速力
- (2) 目的地
- (3) 出発地及び発時刻
- (4) ETA(到着予想時刻)

【問題⑦】

出港時，防波堤通航時を利用してジャイロエラーの検出を行った。防波堤の真方位（海図から測定）が 051° のところ，ジャイロコンパスによる観測方位が 052.5° であった。ジャイロエラーを次から選び，番号で答えよ。

- (1) $+1.5^{\circ}$ (2) -1.5° (3) $1.5^{\circ} E' 1 y$ (4) $1.5W' 1 y$

【問題⑧】

出没方位角法による太陽の観測時機は，太陽と水平線の位置関係がどのような場合か。

<確認問題1>

【問題⑨】

バイスバロットの法則について述べた次の文の空所①～③にあてはまる語句又は数字を下の解答語群から選び記号で答えよ。

地表面の風は（①）とある角度をもって低気圧側に吹くことから、低気圧の中心方向を見つけたり、台風の中心方向を決めたりするのに便利な法則で、「北半球では、風を背に受けて立ち、（②）手を真横にあげ、そのやや斜め前方（約（③）ポイント）に台風（又は温帯低気圧）の中心がある。」というものである。

ただし、台風の（①）はほぼ同心円のため、この法則がよく当てはまるが、温帯低気圧の（①）は（④）によって形が崩れるため、必ずしも正確でないことがある。

解答語群 (a) 等高線 (b) 等圧線 (c) 前線 (d) 右 (e) 左 (f) 1 (g) 2 (h) 4 (i) 暖気団 (j) 寒気団

【問題⑩】

季節風について述べた次の文のうち、誤っているものはどれか、番号で答えよ。

(1) 季節風とは一年を周期として、6ヶ月ごとに吹き変わる風の系統で、大きくわければ夏の季節風期と冬の季節風期となる。

(2) 夏には大陸は著しく熱せられて低気圧域となり、これに伴って海洋の高気圧が張り出してくる。この結果、夏には海洋から大陸に向かって風が吹き季節風となる。

(3) シベリア高気圧から海洋に吹き出る風が冬の季節風で、主に北風が吹き、風力は5～8にも達する。

(4) シベリア高気圧からの季節風は日本の日本海側に雪や雨をもたらす、山脈を越えて太平洋側に出ると低温で乾燥した空っ風をもたらす。

【問題⑪】

次の文は日本付近の気団について述べたものである。それぞれの気団の名称を答えよ。

(1) 大陸性、寒帯性の低温で乾燥した気団で、冬期において、日本海側に雪や降水を、太平洋側に北西風の空っ風をもたらす。

(2) 海洋性、寒帯性の寒冷で多湿な気団で、梅雨期や秋に発達して、日本付近に張り出してくる。

(3) 海洋性、熱帯性の温暖で多湿な気団で、夏期において、日本に安定した天気をもたらす。

(4) 大陸性、熱帯性の温暖で乾燥した気団で、移動性高気圧として、春、秋に日本へやってくる。

(5) 海洋性、赤道性の高温の気団で、日本へは台風期や梅雨期に狭い範囲で舌状になって上空へ進入してきて豪雨をもたらすことがある。

<確認問題1>

【問題⑫】

高気圧について述べた次の文のうち、誤っているものはどれか、番号で答えよ。

- (1) 周囲の気圧を比較した場合、まわりの気圧より高い気圧の部分を高気圧という。
- (2) 小規模な地形性高気圧の他、大規模な気団の発生に関係する温暖高気圧と寒冷高気圧がある。

また、気団から離れて移動するものを移動性高気圧と呼ぶ。

- (3) 北半球では高気圧の中心から気圧の低い周囲に向かって反時計回りに風を吹き出している。
- (4) 高気圧の中心区域では下降気流があり、断熱変化のために空気の温度が上がり、湿度は低くなって雲がきれ、天気が良い。

【問題⑬】

海上衝突予防法の規定について、見張りの手段を説明した次の文章の空欄に適切な語句を入れよ。

- ・(①) による見張り
- ・(②) による見張り
- ・そのときの状況に適した他の (③)

【問題⑭】

海上衝突予防法の規定について、レーダを使用している船舶は他の船舶と衝突するおそれがあることを早期に知るために、レーダをどのように用いなければならないか。

【問題⑮】

海上衝突予防法の規定について、狭い水道等における航法について説明した次の文章の空欄に適切な語句を入れよ。

(①) で、かつ実行に適せば、狭い水道等の (②) 端に寄って航行しなければならない。これを横切ろうとする船舶は他の船舶の (③) となる場合は横切ってはならない。やむを得ない場合を除いて (④) してはならない。

追い越すために追い越される船舶の (⑤) が必要である場合には、追越し船は追越し信号を行わなければならない。追越し船は、右げん追越しの場合は (― ・ ・)、左げん追越しの場合は (― ・ ・ ・) を吹鳴する。追い越される船舶はそれに同意したならば (― ・ ・ ・) を吹鳴する。

<確認問題1>

(一は長音, ・は短音を示す。以下同じ)

【問題⑯】

海上衝突予防法の規定について、行会い船の航法について説明した次の文章の空欄に適切な語句を入れよ。

(①) に他の動力船の (②) を通過することができるように、それぞれ針路を (③) に転じなければならない。

【問題⑰】

海上衝突予防法に関する次の問いに答えよ。

- (1) 2隻の船舶のうち1隻の船舶が他の船舶の進路を避けなければならない場合、他の船舶を何というか。
- (2) 他の船舶はどのような行動をとらなければならないか。
- (3) 保持船が避航船との衝突を避けるための動作をとることができるのはどのようなときか。
- (4) 横切り船の関係において保持船が避航動作をとる場合、やむを得ない場合を除いてどのような動作をしてはならないか。

【問題⑱】

海上衝突予防法の規定について、レーダのみにより、他の船舶と衝突のおそれがあると判断して次のような避航動作をとる場合、やむを得ない場合を除いてどのようなことをしてはならないか。

- (1) 他の船舶が自船の正横より前方にある場合。
- (2) 他の船舶が自船の正横又は正横より後方にある場合。

【問題⑲】

海上衝突予防法の規定について、長音、短音の吹鳴時間はおよそ何秒か。

【問題⑳】

狭い水道等において、追越し船が追越しの意図を示すための汽笛信号を行い、その信号を聞いた追い越される船舶が行わなければならない措置として、海上衝突予防法上正しいものは、次のうちどれか、番号で答えよ。

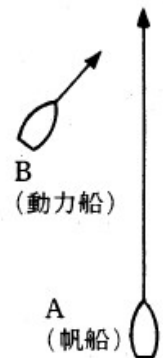
- (1) 追越しに同意した場合は、針路と速力を保って航行しなければならない。

< 確認問題1 >

- (2) 追越しに同意した場合は、同意を示す汽笛信号を行わなければならない。
- (3) 追越しに同意できない場合は、速力を減じ、または機関の運転を止めなければならない。
- (4) 追越しに同意できない場合は、反対を示すために針路と速力を大幅に変えなければならない。

【問題②】

右図に示すように、互いに他の船舶の視野のうちにある航行中の A 船が、B 船を追いつそうとしている場合の航法について述べた次の文のうち、海上衝突予防法上、正しいものはどれか、番号で答えよ。



- (1) A 船は帆船で、B 船は動力船なので、A 船は B 船と衝突するおそれが生じた場合は、針路及び速力を保って航行しなければならない。
- (2) A 船は B 船を確実に追いつき、十分に遠ざかるまで B 船の進路を避けなければならない。
- (3) B 船は針路を保持し速力を減じて、A 船が確実に自船を追いつきまでの間減速しなければならない。
- (4) B 船は、速力はそのままでよいが、針路を変更しなければならない。

【問題③】

海上衝突予防法に規定する「横切り船」の航法について述べた次の文のうち、誤っているものはどれか。

- (1) 他の動力船を右舷側に見る動力船は、他の動力船の進路を避けなければならない。
- (2) 他の動力船の進路を避ける場合、やむを得ない場合を除き、他の動力船の船首方向を横切ってはならない。
- (3) 避航される側の動力船は、その針路と速力を保たなければならない。
- (4) 他の動力船の進路を避けなければならない動力船は、できる限り他船に近づき、大幅な動作をとらなければならない。

【問題④】

夜間、航行中の A 動力船が、その右舷前方に、他の船舶のマスト灯と左舷灯 1 個を認め、衝突するおそれがあるとき、海上衝突予防法上 A 船がとらなければならない措置として正しいものは次のうちどれか、番号で答えよ。

- (1) そのときの針路と速力を保って航行する。

<確認問題1>

- (2)できる限り、早めに、明確な動作をとり、他の船舶の進路を避ける。
- (3)直ちに急速に短音5回以上の汽笛信号を行う。
- (4)他の船舶の汽笛信号を確認するまで、長音 1 回の信号を行う。

【問題②4】

互いに他の船舶の視野の内にある 2 隻の船舶が、互いに接近して衝突するおそれがある場合、海上衝突予防法の規定により「保持船」となるものは、次のうちどれか、番号で答えよ。

右舷開きの帆船と真向かいに行き会う左げん開きの帆船

- (1)漁ろうに従事している船舶を右舷側に見る運転不自由船
- (2)操縦性能制限船を左舷側に見る漁ろうに従事している船舶
- (3)帆のみを用いて航行している帆船を追い越す操縦性能制限船

【問題②5】

海上衝突予防法の規定によると、夜間、運転不自由船の対水速力の有無を判断するには、次のうちのどれによったらよいか、番号で答えよ。

- (1)全周灯を掲げているかいがないか。
- (2)マスト灯及び舷灯を掲げているかいがないか。
- (3)マスト灯及び船尾灯を掲げているかいがないか。
- (4)舷灯及び船尾灯を掲げているかいがないか。

【問題②6】

乗り揚げている船舶及び運転不自由船が、海上衝突予防法の規定により、昼間、表示しなければならない黒色球形形象物の個数を示した下表（１）～（４）のうち両船共に正しいものはどれか、番号で答えよ。

	乗り揚げている船舶	運転不自由船
(1)	1 個	2 個
(2)	2 個	1 個
(3)	2 個	3 個
(4)	3 個	2 個

< 確認問題1 >

【問題②7】

視界制限状態にある水域において、海上衝突予防法の規定により、2 分を超えない間隔で、長音 2 回の汽笛信号を行っているものはどのような船舶か。次のうちから選び、番号で答えよ。

- (1) 乗り揚げている船舶
- (2) 他の船舶に引かれている船舶
- (3) 航行中の対水速力を有する運転不自由船
- (4) 航行中の対水速力を有しない動力船

【問題②8】

海上交通安全法に定める航路を、昼間、紅白の吹流しを掲げて航行している船舶は次のうちどれか、番号で答えよ。

- (1) 緊急用務船
- (2) 消防設備船
- (3) 進路警戒船
- (4) 工事・作業船

【問題②9】

見張り当番を交代する際、次直の交代者に引き継ぐ事項を5つ答えよ。

【問題③0】

次の文章はSTCW条約における航海当直の実施について述べたものである。() 内に当てはまる適切な語句を下の語群の中から選び、記入せよ。

- (1) 航海当直を担当する職員は、(ア) が船橋にいる場合においても、(ア) が船舶の安全な航海についての責任を引き受ける旨を(ア) から明確に伝えられ、かつ、このことが相互に確認されるまでは、引き続き航海当直に責任を有する。
- (2) 当直中は、船舶が予定の針路上にいることを確保するため、必要かつ利用可能な航法装置を使用して、(イ)、(ウ) 及び(エ) を頻繁に確認しなければならない。
- (3) 航海当直を担当する職員は、必要と認める場合には、舵、推進機関及び(オ) 装置をためらうことなく使用しなければならない。
- (4) 航海当直職員は、停止距離を含む自船の(カ) を知っていなければならず、かつ、他船は異なった(カ) を有していることを認識しなければならない。
- (5) 当直中における船舶の航行に関する動き及び処置を適切に(キ) しなければならない。

<確認問題1>

(6)海図室が独立している船橋にあっては、航海当直を担当する職員はやむを得ない場合において航海上の任務のため短時間海図室に入ることとなるときは、（ク）であることを確認し、かつ、適切な見張りが行われていることを確保しなければならない。

(7)当直中少なくとも1回は自動操舵装置を（ケ）にして試すこと。

語群

自動 手動 操船性能 旋回性能 通報 記録 船位 周囲の状況 船長 水先人 音響信号 自動操舵 電子航法 一等航海士 危険 安全 喫水 針路 速力 排水量 総トン数
--

【問題③①】

錨泊中、長さ 100m を超える船舶は、前部の最も見えやすい場所に白色全周灯 1 個を掲げるとともに、できる限り船尾近くの見えやすい場所（前部に掲げた全周灯よりも低い位置）に白色全周灯 1 個を掲げなければならないが、この他に何を実施しなければならないか答えよ。

【問題③②】

BRM に関する説明について述べた次の文章のうち、誤っているのはどれか。番号で答えよ。

- (1)BRM とは Bridge Rescue Machine の略で船橋内での救助機器システムのことである。
- (2)BRM を適切に実行することは、船舶の航行安全に多大に寄与することとなる。
- (3)BRM では双方向でのコミュニケーションを確立し、船橋当直者から船長に対して適切な助言を行うことも重要である。
- (4)BRM では情報を共有することも重要な要素である。

【問題③③】

航海計画立案の手順について説明する以下事項について、誤っているものはどれか、番号で答えよ。

- (1)水路誌等による調査に基づき、最適と思われる出入港航路、沿岸航路を選定する。
- (2)概略の航程と推定実速力より航行日程を求め、出入港時刻、航路上の要所通過時刻を概定する。

<確認問題1>

- (3) 気象を予察し、これが航海におよぼす影響を考慮する。
- (4) 航海に使用する小縮尺の海図にコースラインを詳細に記入する。

【問題③4】

海図に記載の推薦航路について述べた次の文のうち、誤っているものはどれか、番号で答えよ。

- (1) 推薦航路とは、地形、海潮流その他自然的条件のみを考慮の上、航海の安全のために水路図誌の発行者が推薦した航路で墨色の実線または破線で記載してある。
- (2) 図載の航路線は他船との行会い、横切りなど交通的条件を考慮していないから、衝突予防法及び海上交通安全法に関する航法については関係法令による必要がある。
- (3) 航路線は全て航路及び水道の中央と一致させてある。
- (4) 推薦航路はある程度の可航幅をもっているが、それを省略して、1本の標準的な航路線で代表して図載してある。

【問題③5】

次に挙げる ARPA から得られる情報に関して、一般的に正しくないものはどれか、番号で答えよ。

- (1) 危険な物標を認識できる。
- (2) 物標の CPA と TCPA を決定できる。
- (3) 真運動モードのみから情報は得られる
- (4) 試行操船を使用することで、針路速力の意図の妥当性を確認できる。

【問題③6】

次の文章の（ ）にあてはまる適切な語句を、語群から選び、記号で答えよ。

- (1) 双方向無線電話は（ ）と通話ができる。
- (2) 搜索救助用レーダ・トランスポンダは相手船のレーダ画面上に（ ）が表示される。
- (3) 大洋航海中、急病人が発生し他船に援助を求めた。これは（ ）通信である。
- (4) 海上保安庁から台風のため流木が漂流しているとの情報が入った。これは（ ）通信である。
- (5) NAVTEX（ナブテックス）受信機に使用されている電波は（ ）まで到達する。
- (6) インマルサットEGC受信機は（ ）を範囲としている。
- (7) VHF DSC聴守受信機はチャンネル（ ）を常時聴守している。

< 確認問題1 >

語群：ア. 国際VHF無線電話 イ. 衛星船舶電話 ウ. 携帯電話 エ. 遭難 オ. 緊急 カ. 安全 キ. 12個の点 ク. 中心から真っ直ぐにのびた線 ケ. 1個の点 コ. 極地方を除く地球全域 サ. 沿岸から数百マイル シ. 16 ス. 70

【問題37】

次の文章は水深の浅い水域が操船に及ぼす影響について説明した文章である。①～⑧の空欄に適切な語句を入れよ。

水深が浅くなると、船体の運動によって誘起される流体の運動が変化し、特に船底への流れが制限されて一部は流速を（①）して後方に通過し、他は側面に回って（②）な流れとなり、船体廻りの水圧分布を変化させる。このため、船の運動が流体力学的な作用を受け、操船上、様々な影響を受けるようになる。この影響を（③）という。一般に、船は航走を始めると、ごくわずか船体は（④）する。

この量は、船速のほぼ（⑤）に比例して大きくなることが知られているが、水深の浅い水域ではさらに著しくなる。これは水深の浅い水域では船体周囲の（⑥）が増すので、船体表面の（⑦）が全体的に低下するために起こり、水深の浅い水域で起こるこのような現象を（⑧）という。

【問題38】

以下は、風が船舶の後進時に及ぼす影響について述べた文である。文章の空欄に適語を回答語群から選び埋めよ。

船が後進する際にも回頭の中心は重心より（①）側に位置するため、風圧中心と回頭中心の関係は前進時と同様である。

水の抵抗による回頭モーメントは、前進時とは反対に船尾を（②）に回頭させるように作用する。

ここで前進する場合と違うところは、船首に較べて船尾の方が（③）いること、推進器や舵があるために水の抗力が非常に大きくなる。その上、後進する場合は（④）不安定な性質を増すとともに（⑤）も小さい。したがって船尾を風上に回頭させるモーメントは非常に大きくなり、それらの回頭作用を舵で制御することは、ほとんど不可能となる。

***** 回答語群 *****

- (a) 惰力 (b) 船首 (c) 保針 (d) 風上 (e) 肥って
(f) 舵力 (g) 船尾 (h) 針路 (i) 風下 (j) 痩せて

<確認問題1>

【問題③⑨】

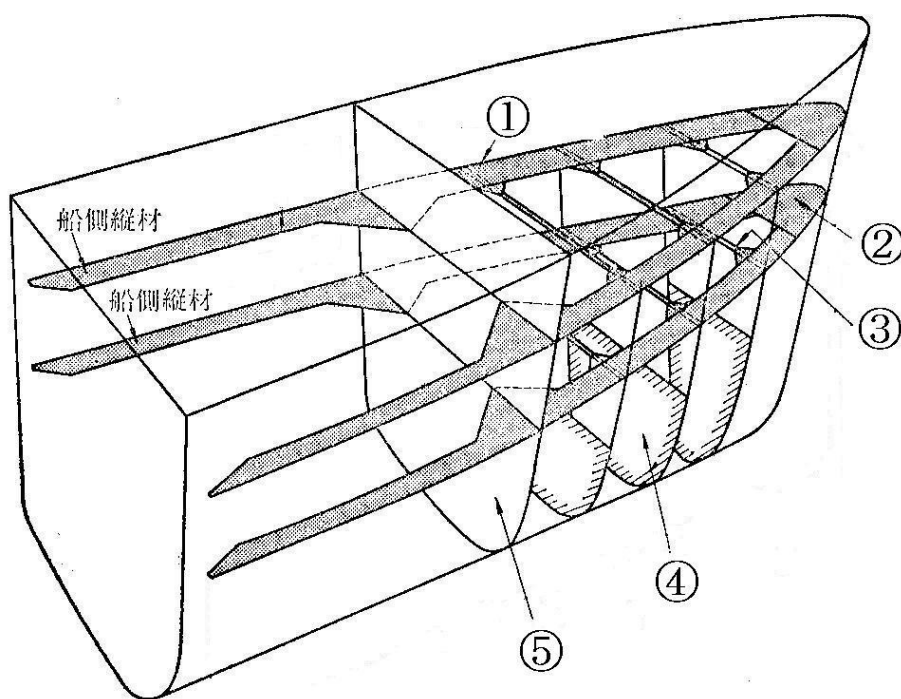
船体外板のうち、貝や海藻類などが多く付着しやすい箇所として適当でないものは次のうちどれか、番号で答えよ。

- (1) 船首前端付近
- (2) 船体の水線部付近
- (3) 冷却水の船外への出口付近
- (4) 機関室下部の船底付近

【問題④⑩】

流出油発生等の緊急事態において、主要連絡先一覧等が掲載された手引書を何というか、答えよ。

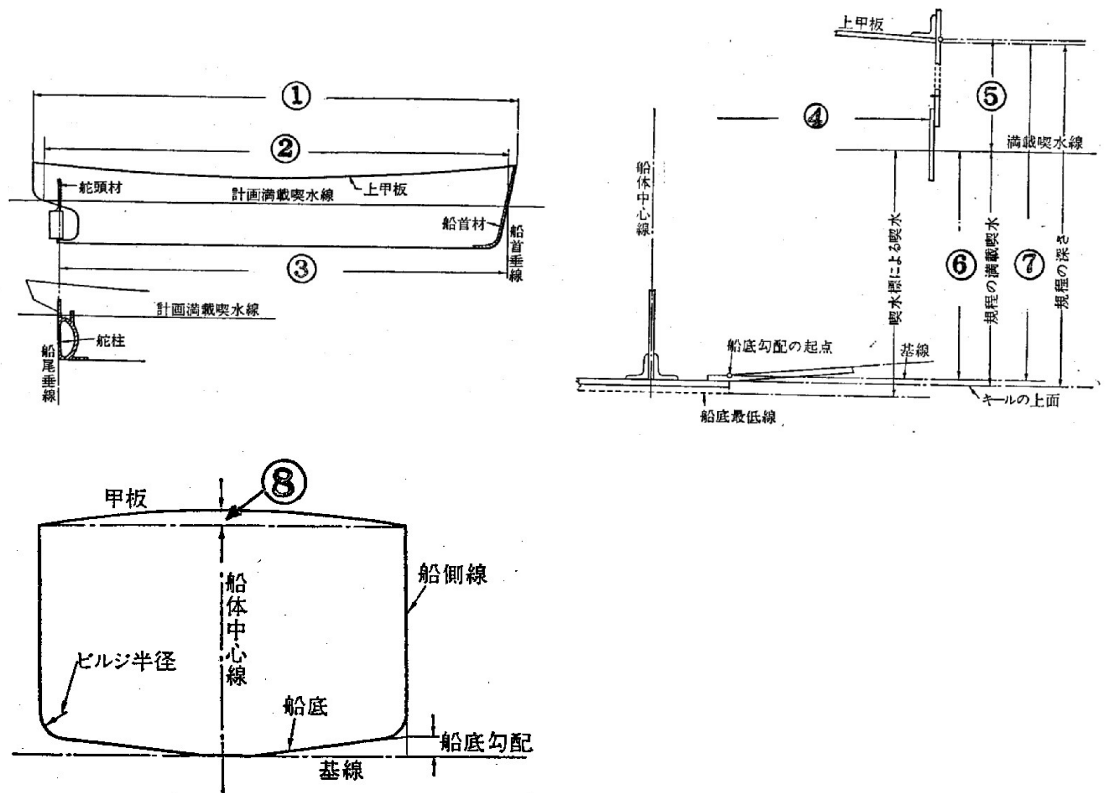
【問題】 船首構造部材について、下図の①～⑤の構造部材を何と呼ぶか答えよ。



<確認問題1>

【問題④】

下図は船の主要目について示したものである。図中①～⑧に示す要目名を語群から選び、記号で答えよ。



(語群) ア. 型幅 イ. 垂線間長さ ウ. キャンバ エ. 型喫水 オ. 水線長さ カ. 登録長さ キ. 全長 ク. 乾舷 ケ. 型深さ コ. 舷弧

【問題④②】

次の文章は各種消火器について説明したものである。あてはまる消火器名を語群から選び①～④の空欄に記せ。

① ()

- ・普通火災 (A 火災) 用である。
- ・可能な限り火元に近づき、炎の根元に向け放射する。

② ()

- ・普通火災 (A 火災), 油火災 (B 火災) 用である。

<確認問題1>

- ・普通火災では燃焼面に向けて放射するが、油火災では燃焼油面よりやや高い内壁にぶつけるように放射するか、距離をとって燃焼油面上に泡を落下させるようにする。燃焼油面に直接衝突させるように放射してはいけない。

③ ()

- ・油火災 (B 火災)、電気火災 (C 火災) 用である。
- ・火災の種類にかかわらず、炎の根元に向けて放射する。放射距離が短く、風の影響を大きく受けるので、風上側からできる限り近づいて放射する。
- ・消炎後も再発火を防ぐため、燃焼面を十分に冷却する。

④ ()

- ・油火災 (B 火災)、電気火災 (C 火災) 用であるが、リン酸アンモニウムを主剤としたものは、普通火災 (A 火災) にも使用できる。
- ・普通火災では、燃焼面が被膜で覆われるまで放射を続ける。
- ・油火災では、炎の前面端より 15cm 手前に向け放射し、前進しつつ炎の幅の端から端まで掃くように放射する。

【語群】炭酸ガス消火器、液体消火器、粉末消火器、泡消火器

【問題④③】

初めて入港する港への入港計画の作成にあたり以下の①～③の観点にて調査すべき内容を述べよ。

- ①港湾事情
- ②港口への入港針路
- ③泊地の選定

【問題④④】

離岸距離を決定する上で考慮すべき以下事項について、誤っているものはどれか、番号で答えよ。

- (1)外力の影響
- (2)航行船舶の輻輳度
- (3)船の大小
- (4)機関の出力

<確認問題1>

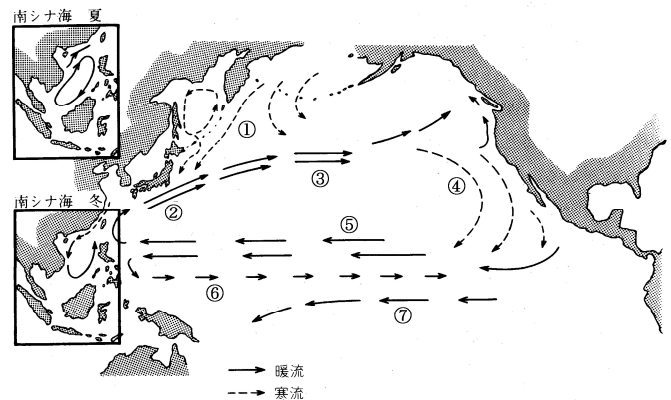
【問題④5】

貿易風について述べた次の文の空所①～④にあてはまる語句を答えよ。

亜熱帯高気圧から赤道低圧帯に向かって吹く風系で、(①)の大部分をおおう。北半球では(②)風、南半球では(③)風であり、それぞれ(②)貿易風、(③)貿易風という。風向、(④)が定常的であるのが特徴である。

【問題④6】

右図の北太平洋の海流について、
図中①～⑦の名称をそれぞれ答えよ。



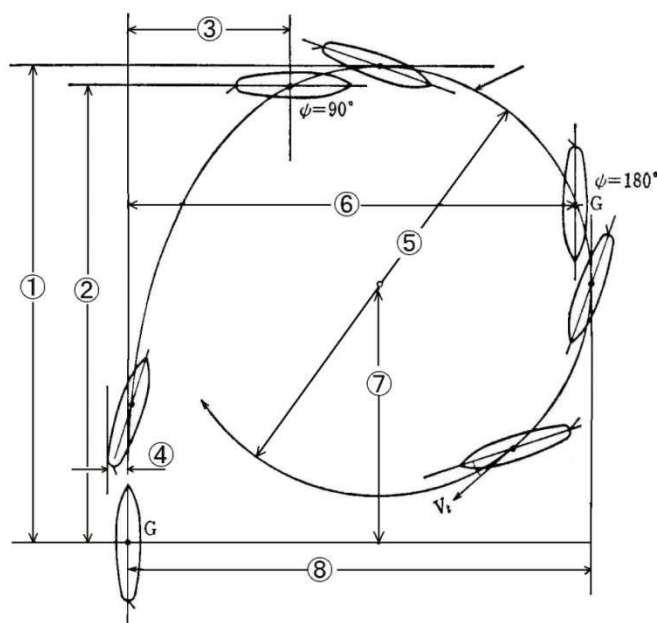
【問題④7】

船員法施行規則（第三条の四）に定められている【非常操舵操練】では、船橋と操舵機室との連絡、その他操舵設備の非常の場合における操舵の他、何を実施しなければならないと定められているか答えよ。

<確認問題1>

【問題④⑧】

船体の運動において、旋回圏の要素を示す下図の①～⑧の名称を述べよ。



【問題④⑨】

以下の危険性がある場合、適切な保護具を語群から一つずつ選び記号で答えよ。

- ① 騒音が発生している
- ② 粉じんやミスト（有毒ではない）が発生している（酸素濃度が常に18%以上ある）
- ③ 目に有害物が入る危険性がある
- ④ 粉じんや薬品が体に付着する
- ⑤ 重量物運搬，落下物により足部障害の危険性
- ⑥ 静電気によって爆発，製品への障害の危険性
- ⑦ 墜落・落下物等による頭部への障害の危険性あり
- ⑧ 高さ2メートル以上，又はそれに準ずる作業所

語群

ア：防毒マスク イ：防護服 ウ：防じんマスク エ：保護眼鏡
 オ：安全ベルト カ：保護帽 キ：静電靴 ク：安全靴 ケ：軍手
 コ：耳栓

<確認問題1>

【問題⑤】

高所作業において講じなければならない措置について述べた次の文章のうち、誤っているものはどれか答えよ。

- ① 作業に従事する者に保護帽及び命綱又は安全ベルトを使用させること。
- ② ボースンチェアを使用するときは、機械の動力により行う。
- ③ 煙突、汽笛、レーダ、無線通信用アンテナその他の設備の付近で作業を行う場合に、当該設備の作動により作業に従事している者に危害を及ぼすおそれのあるときは、当該設備の関係者に、作業の時間、内容等を通報しておくこと。
- ④ 作業場所の下方における通行を制限すること。
- ⑤ 作業に従事する者との連絡のための看視員を配置すること。ただし、事故があつた場合に速やかに救助に必要な措置をとることができる状態で二人以上の者が同時に作業に従事するときは、この限りでない。
- ⑥ 船舶所有者は、船体の動揺又は風速が著しく大である場合は、緊急の場合を除き、前項の作業を行なわせてはならない。